

# 2020 年度 MS 自己点検・評価報告書

## I はじめに

開学 100 周年を迎える 2026 年を目標年として策定された「MS-26 戦略プラン」の推進にかかり、各部署では毎年度事業進捗状況の自己点検・評価を実施している。また、第 3 期大学認証評価の名城大学受審が 2022 年予定であることに対応し、本学では新たな教育質保証制度が 2019 年度から本格稼働している。これらを踏まえ、当該年度事業結果の自己点検・評価を「MS-26 戦略プラン」のドメインごとに取りまとめたものがこの「MS 自己点検・評価報告書」である。

## II 本報告書 作成から活用までの流れ

【3 月】各部署は年度当初に策定した事業計画に対し、自己点検・評価を実施し、その結果を報告書として総合企画部に提出。

【3-4 月】総合企画部にて事業内容を確認。自己評価を参考に、「MS-26 戦略プラン」のドメインごとに「実績・長所」及び「課題」を取りまとめた。

【4 月-】学長スタッフ会議・大学評価委員会等で本報告書内容を共有することを通じて、改善活動を推進する。

## III MS ドメインごとの自己評価結果

評価 A. 目標を上回る取り組みをし改善した B. おおむね目標通りの取り組みをし改善した C. 取り組みはしたが改善していない D. 十分に取組みせず改善していない

MS ドメイン別事業		評価 A		評価 B		評価 C		評価 D		判定不可		総計
		事業数	%	事業数	%	事業数	%	事業数	%	事業数	%	
大学	01-1:人材の確保と育成／学生	30	24%	62	49%	9	7%	12	9%	14	11%	127
	01-2:人材の確保と育成／教職員	25	27%	43	47%	17	18%	6	7%	1	1%	92
	02-1:教育の充実／学びの促進	41	21%	109	56%	25	13%	11	6%	7	4%	193
	02-2:教育の充実／大学院	13	12%	62	55%	21	19%	14	13%	2	2%	112
	02-3:教育の充実／学生支援	16	22%	29	40%	15	21%	8	11%	4	6%	72
	03-1:研究の充実／研究推進	4	10%	24	60%	12	30%	0	0%	0	0%	40
	03-2:研究の充実／国際的研究拠点	1	6%	7	44%	4	25%	4	25%	0	0%	16
	04-1:社会貢献	9	19%	20	42%	12	25%	4	8%	3	6%	48
	05-1:組織・経営改革／組織の活性化	6	15%	29	71%	2	5%	4	10%	0	0%	41
	05-2:組織・経営改革／ブランド力の向上	9	38%	9	38%	1	4%	4	17%	1	4%	24
05-3:組織・経営改革／基盤整備	7	25%	15	54%	3	11%	2	7%	1	4%	28	
高校	01:人材の確保と育成	0	0%	3	60%	1	20%	1	20%	0	0%	5
	02:教育の充実	0	0%	5	100%	0	0%	0	0%	0	0%	5
	03:社会貢献	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	2
	04:組織・体制整備	0	0%	4	100%	0	0%	0	0%	0	0%	4
総計		161	20%	423	52%	122	15%	70	9%	33	4%	809

%は四捨五入により合計 100%とならない場合がある。

※評価D及び判定不可は新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった事業が主な要因であった。

## 【大学】

### 1-1: 人材の確保と育成／学生

#### (1) 実績・長所

- ・各学部で入試形態別の在学生成績分析を実施し、優秀な人材確保に向けての活動を継続した。
- ・2021 年度入試において、全学部の学校推薦型選抜において学力評価を導入した。
- ・受験生への情報提供として、コロナ禍を踏まえ WEB オープンキャンパスやオンライン相談会等新しい取り組みを実施した。
- ・WEB 入学手続制度を導入し、業務を効率化した。
- ・大学院定員について、定員管理適正化の観点から収容定員を変更した(2022 年度から)。

#### (2) 課題

- ・コロナ禍の入試への影響分析。
- ・今後の状況に応じた受験生(留学生を含む)との接触方法を検討する。
- ・入試実施における委託業務の在り方を検証する。
- ・2022 年度入試から導入されるK方式の効果・課題の検証。

### 1-2: 人材の確保と育成／教職員

#### (1) 実績・長所

- ・コロナ禍を踏まえた FD を実施した。
- ・大学評価委員会及び各学部を中心とし、評価項目の見直し等、教員業績評価制度の改善を実施した。

#### (2) 課題

- ・教育職員採用・昇任に関して、ポリシー実現に向けた教員組織編成方針の見直しを継続する。
- ・ICT を活用した授業形態についてのスキルアップへ取り組む。

### 2-1: 教育の充実／学びの促進

#### (1) 実績・長所

- ・「学びのコミュニティ創出支援事業制度」において学生の主体的な学びを促進したとともに、SDGs関連活動の情報発信の場としても活用できるように制度を改善した。
- ・遠隔授業における学修意欲の向上を目指した「オンライン活用法コンテスト」を実施した(「Enjoy Learning プロジェクト」代替事業)。
- ・「名城大学チャレンジ支援プログラム」第 1 期生 32 名修了。
- ・学修成果の可視化及びキャリア支援を目的とした学修ポートフォリオ導入決定(2021 年度から)。
- ・社会連携センター活動活性化(各種ワークショップ、他大学・企業等との連携事業等)。
- ・対面による海外英語研修は実施を見合わせたが、オンライン英語研修を実施し、学びを継続した。

#### (2) 課題

- ・大学評価委員会を中心とした「教学マネジメントシステムの実質化」を継続する。
- ・数理・データサイエンス・AI 教育の充実を加速させる。
- ・学修ポートフォリオ・各種アンケート等学修成果の検証を通じた、学生の成長実感・満足度の向上。
- ・コロナ禍を踏まえた国際化の推進。
- ・副専攻制度の充実に向けた取り組みの推進。

## 2-2:教育の充実／大学院

### (1)実績・長所

- ・各専攻 3 ポリシー策定及び見直し、ダッシュボードによる学修成果の可視化等を通じ、組織的な教育質保証体制を整備した。

### (2)課題

- ・単位制導入後の効果・課題の検証。
- ・学修成果の可視化について、導入されたダッシュボードを活用した検証を行う。

## 2-3:教育の充実／学生支援

### (1)実績・長所

- ・コロナ禍に対応した各種学修・経済及び施設環境整備を実施した。
- ・対面での就職支援が難しい中、就職支援アプリの開発やオンラインによる面談・サロンを実施した。
- ・情報倫理教育を推進した。

### (2)課題

- ・引き続き、友人作り等の機会提供や、退学者防止への面談実施、就職関連行事への出席率向上に向けた工夫など、学生視点に立った取り組みを充実する。

## 3-1:研究の充実／研究推進

### (1)実績・長所

以下の内容の研究体制の整備を行った。

- ・コーディネーター活用等による産官学連携に向けたマッチング支援、科研費申請説明会・研究倫理・コンプライアンス教育の推進、研究復帰支援の新制度導入、URA採用、総合研究所下の各センター研究活動活性化、「名城大学新型コロナウイルス対策研究プロジェクト」の立ち上げ、他大学との協定に基づく共同研究活性化、吉野彰特別栄誉教授の終身教授就任に伴う研究活動活性化。

以下の内容の情報発信を行った。

- ・コロナ禍で各種学会開催・共同研究実施に影響があったものの、オンラインによるバーチャルリサーチフェア開催等をはじめとする学術研究内容。

### (2)課題

- ・科研費等外部資金獲得への取り組みについて、各学部の協力のもと、申請率向上に向けた取り組みを継続する。また研究シーズ集等における教員の研究成果公表数の増加も必要である。

## 3-2:研究の充実／国際的研究拠点

### (1)実績・長所

- ・研究ブランディング事業終了後も採択済 2 事業を継続し、本学の特色として推進している。

### (2)課題

- ・上記 2 事業に続く国際的研究拠点の形成が必要である。

## 4-1:社会貢献

### (1)実績・長所

- ・教育研究活性化に向け、他大学・自治体・企業等との協定締結を進めた。

- ・社会連携センターの活動を通じ、学内と学外とのマッチングに基づく活動が活性化している。
- ・コロナ禍の中、オンライン・対面等手法を工夫したうえで、公開講座・出前講義等を実施した。
- ・専攻科において、学校特色・教育実績等の学校 PR を社会に向け実施した。

## (2) 課題

- ・社会連携活動の参加者確保(学生・教職員)。
- ・社会人の学び直しに資する公開講座テーマ設定を企画する。

## 5-1: 組織・経営改革／組織の活性化

### (1) 実績・長所

- ・開学 100 周年事業室を設置し、周年事業の企画立案を推進した。
- ・内部質保証において、評価活動に学外有識者の参画、全学版「自己点検・評価報告書」作成等を通じ、活動活性化を図った。
- ・競争的補助金事業である私立大学等改革総合支援事業では、全学協力のもと要件充足に向け取り組み、全 4 タイプ中 2 タイプでの採択に至った。
- ・改組等として、情報工学部設置、学部定員増・大学院定員減等の規模適正化を決定した。
- ・意思決定の迅速化や明確化を目的として、経営本部組織を見直した。
- ・事務組織を中心とした業務改善活動を推進した。
- ・体育科学センター・アスリートサポートセンター設置等を通じ、正課内外の体育教育充実を図った。

### (2) 課題

- ・内部質保証実現に向け、引き続き、大学評価委員会を中心とした「教学マネジメントシステムの実質化」を継続する。(2-1(2) 教学マネジメントと重複)
- ・2022 年度の情報工学部開設に向けて魅力的な学部作りと広報を行うことが必要である。
- ・規模適正化を図った大学院への志願者の確保を行う必要がある。
- ・業務改善活動の定着化が必要である。

## 5-2: 組織・経営改革／ブランド力の向上

### (1) 実績・長所

- ・本学卒業生経営者間の親睦・交流の推進等を目的に「名城社長会」を立ち上げ。
- ・本学のブランド力向上に資する広報戦略について検討を開始した。
- ・記者会見、大学ホームページ・交通・新聞広告等を活用した広報を展開した。

### (2) 課題

- ・継続して大学ホームページや SNS を活用した大学広報を推進する。

## 5-3: 組織・経営改革／基盤整備

### (1) 実績・長所

- ・「中期事業計画」及び「収支改善プラン」を策定。各種事業推進に向けた工程を明確化した。
- ・入学定員厳格化に伴う収入減等への対応として、経費節減・予算査定等の厳格化を行った。

### (2) 課題

- ・中期事業計画に基づく各種事業の進捗管理を推進する。

## 【高校】

### 1: 人材の確保と育成

#### (1) 実績・長所

- ・志願者数は 7,168 名 (前年比 89%)、入学者数 695 名となり、学則定員を確保した。

#### (2) 課題

- ・来場者の満足度をより高める公開見学会・塾対象説明会を工夫する。

### 2: 教育の充実

#### (1) 実績・長所

- ・臨時休校中の学習対応として、webclass・スタディサプリ等 ICT を活用したサポートと、担任から生徒へ電話連絡等を通じた声掛けを併用し、生徒の学びを止めないよう対応した。
- ・アクティブラーニング研究会を開催し、探求学習推進に向けた ICT 活用研究を推進。学外コンテスト等の受賞生徒も輩出した。
- ・中止となった海外研修に替わる活動として、オンラインを用いてタイ・韓国・香港・インドネシアとの海外交流等を実施した。
- ・4 期目となるスーパーサイエンスハイスクール (SSH) 指定校に選定された。

#### (2) 課題

- ・国内外の感染状況を踏まえ、オンラインを用いた海外研修の充実を図る。

### 3: 社会貢献

#### (1) 実績・長所

- ・災害避難場所における感染症対策をテーマとした講演を行い、生徒及び教職員の防災意識を高めた。

#### (2) 課題

- ・防災減災意識の啓発活動、訓練を継続して実施する。

### 4: 組織・体制整備

#### (1) 実績・長所

- ・教科主任と学年主任を分担制とし、業務内容の質向上と当該教員の負担軽減を実現した。
- ・学校組織に校長直下の図書局を配置し管理運営を強化した。
- ・同窓会文化講演会実施を通じて、卒業生住所確認や参加卒業生との交流深化を図った。

#### (2) 課題

- ・卒業生に向けた広報を強化し、100 周年事業への理解協力及び在学生との交流活性化を実現する。

以上